

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET46J017	臨床心理査定演習 (心理アセスメントに関する理論と実践)(Seminar in Assessment of Clinical Psychology I(Theory and Practice of Psychological Assessment))					臨床心理学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 溝口 剛・佐藤晋治 E-mail t-mizo@oita-u.ac.jp(溝口), ssato@oita-u.ac.jp(佐藤) 内線 7522(溝口), 7531(佐藤)						
授業の概要	心理検査を用いた心理査定の実際について、具体的な事例に基づいて学ぶことで、高度に実践的なアセスメント能力を養成する。前半では特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている投影法(描画法, SCT, ロールシャッハ・テストなど)を中心に学習する。ロールシャッハ・テストについては、正確なスコアリングと量的分析, 継列分析について習熟することを目指す。 後半では発達臨床において用いられることが多い、特に施行・解釈にあたって十分な習熟と訓練が必要とされている知能・認知機能検査(ウェクスラーファミリー, KABC-, DN-CASなど)を中心に学習する。WISC- については、正確なスコアリング, 結果の処理, 解釈のステップについて習熟することを目指す。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	心理検査(投影法, 知能・認知能力検査)を正しく施行し, 適切に結果を整理し, 総合的に解釈する実践的能力を身につける。											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション(溝口・佐藤)											
2	ロールシャッハ・テスト模擬事例の呈示[課題:スコアリング](溝口)											
3	ロールシャッハ・テスト模擬事例のスコアリング確認[課題:集計, 所見作成](溝口)											
4	ロールシャッハ・テスト模擬事例の解釈(所見発表)(溝口)											
5	ロールシャッハ・テスト模擬事例の呈示[課題:スコアリング](溝口)											
6	ロールシャッハ・テスト模擬事例のスコアリング確認[課題:集計, 所見作成](溝口)											
7	ロールシャッハ・テスト模擬事例の解釈(所見発表)(溝口)											
8	課題準備(溝口)											
9	WISC- 模擬事例の呈示[課題:スコアリング, 結果の処理](佐藤)											
10	WISC- 模擬事例のスコアリング確認[課題:結果の処理, 所見作成](佐藤)											
11	WISC- 模擬事例の解釈(所見発表)(佐藤)											
12	WISC- 模擬事例の呈示[課題:スコアリング, 結果の処理](佐藤)											
13	WISC- 模擬事例のスコアリング確認[課題:結果の処理, 所見作成](佐藤)											
14	WISC- 模擬事例の解釈(所見発表)(佐藤)											
15	課題準備(佐藤)											
ラック ニティ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	予習, 復習, 宿題, 体験活動, 調べ学修(文献, インターネット), Moodleの活用, プレゼンテーション, ディスカッション, 相互教授(ピアインストラクション), 学びの省察,			工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	授業で提示される模擬事例については, 各自でスコアリング, 結果の処理, 分析等を行う(1週あたり120分)。										
	事後学修	学修した内容を振り返り, 授業で扱った内容や関連する課題について論文, 書籍, インターネット等により「調べ学修」に取り組むこと(1週あたり120分)学修。										
教科書	片口安史 1987 改訂 新・心理診断法 金子書房 高橋雅春・高橋依子 1986 樹木画テスト 文教書院 上野一彦・松田 修・小林 玄・木下智子 2015 日本版WISC- による発達障害のアセスメント 日本文化科学社											
参考書	コッホ, K. 岸本寛史・中島ナオミ・宮崎忠男(訳) 2010 パウムテスト第3版 心理の見立ての補助手段としてのパウム画研究 誠信書房 馬場禮子 1995 ロールシャッハ法と精神分析 継起分析入門 岩崎学術出版社フラナガン, D.P., カウフマン, A.S. 上野一彦(監訳) 2014 エッセンシャルズWISC- による心理アセスメント 日本文化科学社											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への取り組み, 課題遂行状況, 発表・討論の状況	60%										
	最終レポート	40%										
注意事項	質問紙法(TEG, GHQ, Y-Gなど)や投影法(描画法, SCT, ロールシャッハ・テストなど)の基礎は習得済みであること。 知能・認知機能検査(ウェクスラーファミリー, KABC-, DN-CASなど)や発達検査など(Vineland- 適応行動尺度, CLISP-dd, 感覚プロファイルなど)の基礎は											
備考	「臨床心理士」および/または「公認心理師」の受験資格取得を目指すものにとっては必修科目となる。 佐藤担当の講義では, Moodleを閲覧できる媒体(スマホ, タブレット端末, ノートPCなど)を持参すること。また少なくとも週に1度はMoodleのこの科目のペー											
リンク	URL											